

研究ノート

絵本の書誌のための索引作業： 図書館を描いた絵本を対象として

Indexing work for a bibliography of Picture Books about Library

村主千賀*

Chika MURANUSHI

キーワード：絵本 図書館 司書 索引 索引作業

Key Words : picture book , library, librarian, index, indexing

要約

子どもに対する図書館教育、ならびに司書、司書教諭、学校司書の養成において絵本を有効に利用することを提案する。用途に合った絵本の選書のために、本研究では、図書館を描いた絵本の索引語の抽出とカテゴリー化を試みた。

abstract

This study proposes the effective use of picture books in library education for children, and in the training of librarians, teacher librarians, and school librarians. In order to select picture books suitable for these purposes, this study attempted to extract and categorize index words of picture books depicting libraries.

はじめに

本研究は、絵本を用いて「図書館を伝える」ために、図書館を描いた絵本（以下図書館絵本）の選書を助ける書誌（データベース）や読書案内のための索引について検討し、索引語の抽出を試みる。索引の対象とするのは、これまで発表した図書館絵本のリスト（村主 2017 - 2020a, b）にあげた絵本、発表後に見出し入手したもの、2020年以降に出版されたものを対象とする。これまでの研究の中で、子どもが楽しみの中で図書館に親しみ、生活の文脈の中に図書館が埋め込まれる必要があり、そのために図書館絵本を活用することの有用性を述べてきた（村主 2017 - 2020a, b）。本研究では子どもと図書館絵本をつなげる役割担いうる人が、どのような絵本が何を

* 東海学園大学人文学部

伝えているのかを判断し選書できることが必要であると考え。そこで図書館司書、学校図書館司書教諭（以下司書教諭）、学校司書、ならびに幼児教育、学校教育に携わる者、また図書館司書課程や学校図書館司書教諭課程を履修する学生が利用する情報源の作成を想定し、絵本をただリストするだけでなく、多様な索引語を付与することで目的に沿った選書が可能となることを目指した。

1. 研究の背景：絵本の主題検索の困難さ

児童サービスコーナーあるいは学校図書館において児童書や絵本は、内容からの主題分類を行わないことがある。多くは、タイトルの五十音順、著者名の順で配架される。また、主題分類ほどではないが、知識の本、お話の本という分け方をすることがある。絵本コーナーを別置で設置する場合に、全国学校図書館協議会⁽¹⁾は、学校図書館担当者に向けて、“本の仲間分けがあることを示す目的で、「日本の絵本」「外国の絵本」「知識の絵本」などに大きく分類するとよい”と示唆し、“配列は著者順か書名順か意見の分かれるところです。低学年の児童にとって、自分で探して選んだ絵本がおもしろかったときの喜びは格別で、その後のひとり読みの読書へとつながります。書名の五十音順で配列することで、読みたい絵本を自分で探し出すことができます”としている。一方中・高学年では「同じ著者の本を読みたい」という利用もあり、著者順の配列を行うことがあるが、その場合は低学年より系統的に本の探し方指導を前提としていると述べている。

このように主題分類を前提としない子ども向けの資料について、特定の主題に関する資料提供を意図する場合、「展示コーナー」の設置や「読書案内」の配布という手段をとることができる。では、その展示や読書案内のための選書はどのように行えばよいか。司書教諭、ならびに学校司書、児童サービス担当者は、各種の市販の絵本の書誌・索引や読書案内を利用し、蔵書と照合し「自館の読書案内」を作成し「展示」を行うことになる。市販の資料は実にさまざまで、また必ずしも司書の目的や資料ニーズにあった編成が行われているわけではない。それぞれの読書案内は索引があるもの・ないもの、独自の観点からのジャンル分けと目次からなるもの、掲載する絵本の書誌があるもの・ないもの等がある。普段かこれらに目を通しながら、自館の蔵書のイメージができなければならない。

国立国会図書館のリサーチナビ⁽²⁾で、「絵本・児童書をあらすじ（内容解説）から検索するには」において、内容からの検索方法が挙げられている。実際には入力される目録の詳細情報に依存するので、検索漏れが生じやすい。そもそもフリーワードによる検索であるため、同義語や類義語の統制は行われていない。また、内容解説欄中に記述されているとおりの表現でなければ探せない。つまり「犬」と「いぬ」は違う結果になる。さらに、本研究の主題とする「図書館を描いた絵本」について検索する場合では、内容解説欄に図書館またはライブラリー（ライブラリ）と記述があれば検索されるが、そもそも、内容検索だけの検索の機能がなく、ほかの書誌的事項

も検索項目となる。そのため、「〇〇ライブラリー」のようなシリーズ名を持つものすべてが検索されてしまい、ノイズが非常に多くなる。事例としては評論社の「児童図書館・絵本の部屋」というシリーズ名が存在するが、それは出版社が読者対象を児童としているために「児童図書館」という名を冠しているものであり、児童図書館に関するものではない。このように件名付与、主題分類を行わない絵本資料においては内容検索を頼るしかないが、検索漏れ・ノイズには注意が必要である。

2. 既存の絵本ガイドにおける「図書館」の扱い

2.1 分野・主題を特定しない絵本の読書案内

絵本を紹介する読書案内の類は数多く出版されている。対象年齢層別、独自に設定したジャンル別、読み聞かせのためと題した目的別などがあり、紹介される絵本の書誌情報の詳細さの程度、内容紹介の有無、記載内容の排列など多様である。今回は網羅的な検証はおこなってはいないが、これまでの絵本収集で参考にしたもの、また東海学園大学図書館において確認可能な範囲で、図書館絵本に言及のあるものを中心に述べる。

絵本というと、幼児・初等教育の低学年をイメージしがちであるが、ヤングアダルトを対象とした絵本ガイドがある(金原・ひこ 2018)。ジャンル(当資料がジャンルと呼んでいる)に分け、名作やロングセラーから2017年刊行まで長い期間を対象に紹介している。ジャンルはアート、ナンセンス、私は私、恋愛と友情、家族、生と死、平和と戦争、歴史、自然、物語の10種で、それぞれのジャンルを1章ずつ章立てし、絵本に様々な形で携わる者が選書している。そのうち、図書館に関わる絵本としては、「ヒトにもモノにも歴史あり」(歴史)の章で紹介される8冊のうち『ゲーテンベルクの不思議な機械』『本と図書館の歴史：ラクダの移動図書館から電子書籍まで』の2冊があげられている。「一生ものの物語をさがして」(物語)の章では『ルピナスさん 小さなおばあさんのお話』が紹介されている。それぞれ、図書館の歴史そのものを扱う絵本、印刷革命と呼ばれたゲーテンベルクの発明に関する絵本、そして司書であった女性の生涯を描いた絵本である。絵本が小さな子どもだけのものだけでなく、10代の人に手に取ってほしいという監修者のコンセプトが反映された「ジャンル」分けであり、「何について描かれているか」という主題に重点は置かれていない。

『おやちれんがすすめるよみきかせ絵本』(親子読書地域文庫全国連合会 2013、2015)は、読み聞かせのための選択書誌であり、低学年向(2003~2012年刊行対象)と高学年向(2004~2014年刊行対象)がある。それぞれ8つのテーマに分類して内容を紹介している。低学年ではテーマは、I いのち・愛・信頼、II 友だち・学校・家族、III 平和・ハンディキャップ・共生、IV 冒険・ふしぎ・あそび・ユーモア、V むかしばなし・民話・伝説、VI 季節・行事・くらし・仕事、VII 科学・自然・環境、VIII 詩、ことばあそび、わらべうたと分類されている。対象とする刊行年の絵

本をこの分類に排列し、加えて読みつがれている絵本100点について、同分類そってリストに書誌事項のみ掲載している。テーマIに『としょかんねずみ』、テーマIVに『しずかに！ここはどうぶつの図書館です』、テーマVIに『風をつかまえたウィリアム』『ママの図書館』『トマスと図書館のおねえさん』『図書館ラクダがやってくる』『ぼくのブックウーマン』、読みつがれている絵本コーナーにて『はちうえはぼくにまかせて』がテーマVIにあげられていた。本書は、書名、作者、著者はあるが、独自分類以外に絵本の主題の手がかりがない。少なくともVIに取り上げられている絵本はどれも図書館員の活動を描いており、「仕事」の中に位置づけ、図書館を利用することで課題解決することを「くらし」に位置づけていることがわかる。高学年向けのテーマは、低学年と似ているが高学年向けに若干の変更がある。IIは友だち・家族、IIIは平和、IVはふしぎ・ユーモア、VI社会とし下位に人物・仕事、歴史・地理・文化を置く。VIIは自然・科学、VIIIはことば・詩・音楽となっている。興味深いのは、IIのテーマに『ぼくが一番望むこと』、『ぼくの図書館カード』『としょかんライオン』が分類され、人と人・心をつなぐというテーマの中に、主人公を図書館と結び付けた人の存在や、一緒に図書館にいる仲間という視点で分類されていることである。III平和にはイラクの空爆から蔵書をまもった図書館員を描いた『バスの図書館員』が原爆やアンネフランクを描いたものと一緒に紹介されている。『図書館に児童室ができた日』はVI社会-人物・仕事に分類され、子どもの本に関わる大人にこそ読んでほしいという推薦文が添えられている。『風をつかまえたウィリアム』『道はみんなのもの』は大分類は同じテーマであるが、歴史・地理・文化に分類される。それぞれマラウイ（アフリカ）とベネズエラを舞台としているため、地理・文化に分類されたのであろう。

それぞれの読書案内で独自の観点から紹介しているもので、索引を持たないものでは、内容に目を通す際に、偶然に図書館絵本に出くわすことになるであろう。このことは、既存の身近な市販の読書案内で、目的をもって特定主題で検索することの難しさでもあると言える。

2.2 図書館を描いた絵本を紹介するもの

図書館を主題とした読書案内としては、webサイトの絵本ナビ⁽³⁾と草谷による読書案内がある（草谷2012）。絵本ナビの「図書館を舞台にした絵本」では48点がリストされ、人気ランキングが示されている。ただし、その中には絵本というよりは、200ページを超える絵本ではない児童文学作品も含まれている。草谷による『はじまりは図書館から』は、サブタイトルを「絵本は語る」とする通り、「図書館や本が人とどう関わり、地域の発展や個人の生き方にどう影響しているのか」を紹介することを目的とした優れた読書案内である。目次は紹介される図書館がどのような場であるのか、何ができるのか、人生にどのような影響を与えたか、という観点から構成される。紹介される絵本の書誌的情報の一覧や、索引は備えていない。そのため、目的をもってリストから絵本を選択しようとする場合には、通して読みこむ必要があり、特定の絵本を、タイト

ルや作者から参照するという利用にはやや不便である。

3. 絵本の索引・目録・データベースの例

絵本の検索という点で見ると、索引や検索を意識する配列をもった書誌または書誌データベースが必要である。前述した通り、主題を意識した検索では、NDLサーチではノイズが多くなるため、絵本のみを対象とし、索引語が付与されたものが望ましい。

絵本を対象としたデータベースには、鳴門教育大学に「子どもの心を理解するための絵本データベース」⁽⁴⁾がある。これは、“280の主題分析項目と書誌情報を加えたデータベース。絵本を通して子どもの心を把握。子どもの心を描いた優れた絵本を分析し、子どもの発達や心理の解明を目指したデータベース”である。当データベースは、“基本的書誌項目に、具体的内容をあらわすストーリーや主人公の性別、年齢層が付け加えられています。絵本の内容はさらに分析され、6個の大主題とそれに連なる280の主題で分類され収録されています。大主題は「生活と自立」、「自我・自己形成」、「友達・遊び」、「性格」、「心」、「家族」であるとしている。2002年に公開され、2007年時点で収録数は日本語絵本2419点、英語絵本401点である(佐々木 2000)。たとえば語「図書館」で検索すると『としょかんライオン』などをはじめとして数点がヒットする。『としょかんライオン』の大主題は「心」であり、主題として付与されている語は聞く、読む、手伝う、喪失する、偏見をもつ、嫉妬する、叱られる、誉められる、動物と遊ぶ、仲間意識を育てる(以下略)などである。データベースの分野と目的によって索引語が与えられていることがよくわかる。データベースであるので、タイトルに「図書館」が含まれている絵本は検索することができる。

東京子ども図書館の目録『絵本の庭へ』(東京子ども図書館 2012)は、画家名の50音順で1950年から2010年までの日本で出版された絵本のうちの1157点を対象としている。巻末に件名索引として、主な題材、登場人物、場所、時代、事物などが件名として表現され、大項目・中項目のものに体系化されている。図書館は大項目一場所、中項目一施設・建造物のもとに、図書館という件名が与えられている。図書館のもとに『アンディとらいおん』、『ステラのえほんさがし』、『としょかんライオン』の3件があげられている。しかし、草谷が図書館における課題解決として紹介する『はちうえはぼくにまかせて』は、図書館の件名は与えられてないばかりか、内容紹介の本文に図書館への言及がなかった。ほかに村主が収集した図書館絵本でタイトルに「図書館」「としょかん」を含まず、収録対象期間と合致するタイトルは『絵本の庭へ』には掲載がなかった。しかし、たとえば『ぼくのブックウーマン』は当館の資料室には所蔵する。タイトルがわかっているものは検索が可能であるが、現時点で、詳細書誌情報に件名の項目がない。また、OPACには現時点で当館の既刊の書誌類に掲載されるものは冊子体を使うよう案内されているため、いずれにしても絵本の主題や多様な事項からの検索が充分できるとは言えない。

特定の蔵書を対象としない一般的な書誌として『絵本の住所録』(船橋 1993)がある。その副

題にある通り、テーマ別の絵本リストを標榜するものである。ここでは、テーマ別にカテゴリー化され、そのカテゴリーがいくつもの索引語を持つ。索引語の選択は、たとえその索引語から導かれるものが1タイトルであったとしても索引される。たとえば「ワシ」という索引語には『オオワシ』の1タイトルしかない。索引の階層としてはカテゴリーの最上層を「生き物」とし、生き物 > 鳥 > ワシ となっている。内容として、多様な種類を含んだり、総合的な扱いをしたりする場合は「動物一般」「鳥一般」に収めている。子どもの世界という上位カテゴリーがあり、

子どもの生活 > 子どもの生活一般 / 子どもの生活 > 学校・幼稚園

という分類はあるものの、「図書館」は索引語にはない。本書が出版された当時、図書館を描いた絵本がなかったわけではなく、例えば『絵本の庭』で図書館の件名が付与される『アンディとらいおん』は生き物 > 動物 > ライオンのもとに掲載される。つまり、絵本を索引する際に「図書館」という主題をとらなかったということであり、子ども生活の場に図書館が意識されなかったこと、登場する生き物により重点が置かれたということである。また船橋らによる読み聞かせの対象者を就学前の子どもに絞ったリスト(船橋・富田 2019)にも、保育活動と生活 > 子どもの関心・興味 > 動物のもとに索引語ライオンがある。そこには『としょかんライオン』がリストされている。ここから、絵本リストの目的や対象によって、索引語が選択されるということがよくわかる。索引語に図書館がないからと言って、図書館絵本が子どもに伝わらないというわけではない。子どもの生活の中に溶け込んだ図書館が描かれた本は多く存在するので、さまざまな絵本を楽しむ中で、世界を構成する要素の一つとして図書館に触れることはできる。動物を主人公にした図書館絵本はかなりの数に上るので、上記の例を参考にすると、図書館絵本の索引語には「動物」と具体的な動物名は必須であると考えられる。

4. 図書館絵本の書誌のための索引

本研究では、「図書館を描いた絵本」の書誌または読書案内の排列のためのカテゴリー化ならびに索引語の抽出を行う。対象とするのは、先行研究で公表したリスト(村主 2019, 2020a, b)にある182件を含む約200冊である。これまで、少なくともアクセス可能な図書館に所蔵するもの等、現物確認をできるものを対象に数多くの図書館絵本を収集、または確認した。造本や見た目は絵本の体裁をとるワーク形式のものや便覧を「知識の絵本」として含め、かつ日本で入手可能であった英語、韓国語の絵本も含めると約200点強のコレクションを形成している。英語、韓国語の絵本を含んでいるのは、図書館利用者の多様性ととも、図書館を通じた多文化理解を想定している。公共図書館の多文化サービスにおいて、図書館の案内サインやwebページの外国語

表記に英語、韓国語が含まれることは多く、多文化資料として英語や韓国語が収集・提供の対象になることが多い。また、学校教育の中での英語教育や K-POP の流行などから、英語、韓国語は子どもが触れる機会の多い外国語であると言え、外国語の絵本への手がかりになると考えるためである。

索引語の抽出手順としては、対象とする資料群について、「絵本を楽しむ」観点から、一般的な絵本索引にならない、主人公または登場する人物（動物、架空の生物を含む）や、場所（建物を含む）、出来事、背景となる社会や文化に関連する語、表現上の特徴を表す語を抽出した。「図書館を知る」観点からは、具体的な図書館名、実在する人物名、館種、サービス名等を抽出した。実在する人物名、図書館名については本文に具体名がない場合は、出版社の提供する情報、絵本ナビや市販の読書案内、Amazon 等の販売書誌より情報を得た。

これまでの絵本研究で得た情報に基づき、絵本 1 冊ずつ作成した読書カードと現物を参照し、1 点ずつすべてについて、登場人物、場所、内容を表す語などを抽出した。抽出した語は複数のグループ（大項目）に分け、さらに下位区分（中項目）のもとに索引語を整理した。

登場する主人公や、中心に主人公と関わる重要なものがあるが、必ずしも人間だけが登場するわけではないので、「生き物」としている。実在の人間を描くものがある一方で動物や架空の妖精やドラゴンが登場する。中心となる「主人公」を表す語として、大人か子どもか、女の子か男子か、職業は何かなど、多様な観点から索引語を付与することになる。

図書館の種類では、館種はもとより、図書館が船やバスであるなど、必ずしも建物ではない。また実在する図書館も数多く描かれている。歴史は、図書館それ自身の歴史の変遷だけではない。戦争や紛争を背景とした図書館をめぐる出来事であったり、歴史上の偉人が図書館に関わったり、世間では知られてないが図書館界としては重要な出来事や、ニュース的なエピソードなどもあり、様々なレベルの「出来事」が含まれる。歴史上の偉人に関しては、歴史のグループにも、登場する生き物（ひと）でもある。図書館リテラシーについては、利用方法、図書館でできること、利用目的、蔵書の紹介など、多岐にわたっている。例えば、便覧形式のものは、タイトルで判別可能であるが、お話のエピソードとして「課題解決」などがある場合にこそ、主題を表す語としての「課題解決」が活かされることを意図している。索引語のグループは、1 登場する生き物、2 図書館に関わりの深い実在の人物、3 図書館の種類、4 歴史の中の図書館、5 図書館利用・図書館リテラシー、6 ストーリー以外の特徴的な表現要素である。

以下に索引抽出した索引語をグループ別に示す（表 1 - 6）。表 1 にはお話の主役となるもの、図書館利用者と同伴者、図書館を利用するもの、擬人化された図書館司書の役割を果たすものなどを含んでいる。特に、動物の登場は多く、なかでもライオン、ドラゴン、くまは擬人化の設定、もしくは動物そのものとして、多様な役割でよく登場する。

表1 登場する生き物

生き物	動物	くま	ぞう	いぬ	ライオン	かもしか	コアラ	たぬき	さかな	オオカミ
		ろば	ねこ	ふくろう	トリ	こうもり	ねずみ	きつね	カエル	きんぎょ
	古代生物	恐竜	ティラノザウルス	トリケラトプス	白亜紀の生物	アンモナイト				
架空のいきもの		ゴースト エイリアン	妖精 異星人	モンスター	おばけ	かいぶつ	ドラゴン	魔女	トッケビ	
ひと	家族	ママ	お母さん	パパ	お父さん	兄	弟	姉	妹	
		おばちゃん	おじいさん	おばあさん	女の子	男の子	障がい者	黒人	日系人	女王様
		サーカス	海賊	修道士	司書					
		実在の人	偉人							
キャラクター		エルモ (セサミストリート)		おさるのジョージ		シュレック		メイシーちゃん		
非生物		ケーブルカー	本	ぬいぐるみ		ジンジャーブレッド				

*擬人化された非生物を含む

表2は図書館にかかわりの深い実在の人物名である。図書館の創設に多大な寄付を行った人物、図書館を利用することで人生を切り開いていった人物、移動図書館や児童図書館など、図書館活動に貢献した人々、本づくりや印刷を考案した人などが含まれる。

表2 図書館に関わりの深い実在の人物

アリア (アーリア)・ムハンマド・バクル	アン	キャロル	ムーア	アンドリュー・カーネギー
イ インピョ	イエラ	レップマン		ウィリアム カムクワンバ
エラストテネス	エリザベス	ブラウン		川原正美
クララ ブリード	グレゴール・ヨハン・メンデル		トーマス	ジェファーソン
トマス リベラ	ドロシー	トーマス		ブッカー・ワシントン
メアリー レミスト	ティットコム	ヨハネス	グーテンベルク	メルビル デューイ
ユリウス カエサル	リチャード	ライト		ローズ アレタ ローレル

表3は図書館の種類としているが、館種だけでなく、フィクションのお話の中には船の図書館や巨木が図書館になるものなどがあり、図書館が建築物だけではないために、「形」も必要なポイントと考える。また、実在の図書館を舞台にしたり、その図書館そのものを描いていたりするものがあるため、それを挙げた。

表3 図書館の種類

館種	公共図書館 フリーリトルライブラリー	学校図書館	国立図書館 荷馬図書館	児童図書館 移動図書館	修道院図書館 文庫
図書館の形	電車 馬車	バス 船	ロバ 馬	樹木 ラクダ	
実在の図書館	ソノマ カウンティー ライブラリー (アメリカ) ニューヨーク 公共図書館 (アメリカ) ユージン クラーク ライブラリー (アメリカ) テキサス ロックハート ライブラリー (アメリカ) ワシントン郡立 公共図書館 (アメリカ) サンフランシスコ市立図書館 (アメリカ) 米国議会図書館 (アメリカ) ミュンヘン国際児童図書館 (ドイツ) 国際こども図書館 (日本・国立) 東村山市 くめがわ電車図書館 (日本) アムサ図書館 (韓国) カーネギー図書館 (アメリカ) インピョ図書館 (韓国) バスラ市中央図書館 (イラク)				

表4 歴史の中の図書館

出来事	歴史上の出来事 もしくは史実	戦争 第二次世界大戦 イラク戦争	移民 人の鎖 人種差別	ロバの図書館 ブックモバイル 荷馬車図書館員 バスラの図書館	米国議会図書館の誕生 児童サービスの誕生 蔵書の寄付	カーネギー図書館 インピョ図書館 寄付活動	市民集会 (サンフランシスコ) 司書エラトステネスの地球計測	公平な利用 平等な利用
	エピソード	猫の保護 猫のデューイ	車いす司書 カモシカ乱入	ハンスト				

表4は図書館の歴史そのものを描くだけでなく、戦争や紛争、人種差別などを背景とした社会の中の図書館の役割や、人々との関わりを描くもの、図書館の在り方を通じて平和や平等を描くものから語をリストした。戦争や平和、差別などの社会問題について啓もうの意図をもって描かれるものが一定数存在するので、具体的な史実を指してはいないが、索引語として取り上げた語もある。また個別の図書館にとっては一大事であった出来事・事件は「その図書館の歴史」として「エピソード」の欄を設けた。

表5には図書館がどのような場所かを伝えるために、図書館リテラシーやマナー、図書館サービスに係る語を中心にまとめた。

表5 図書館利用・図書館リテラシー

利用目的	宿題 あまやどり	好きな本 会話	課題解決 読書	問題解決 イベント	調べ学習	情報検索
図書館リテラシー	OPAC 探索方法 利用登録	貸出 パソコン 貸出カード	返却 5 finger rule インターネット	分類 配架	DDC 書架分類	NDC 請求記号
調べる内容	宝探し おたまじゃくし	さかな ひつじ	くも 発電	恐竜 植物の育て方	虫 森	へび
図書館の蔵書	フィクション 本		ノンフィクション 絵本 新聞		伝記 図鑑	百科事典 地図
マナー	静かに 本の取り扱い	迷惑行為 しおり	延滞 セルフマーカー	破損	汚損 荷物	らくがき
司書の仕事	レファレンスサービス カウンター業務		フロアワーク 組織化		本の修理 分類・目録	
図書館イベント	読み聞かせ 図書館週間 ドッグセラピー（読書練習）	展示 お話の時間	ワークショップ 人形劇の日 本のリサイクル		図書館の日 ぬいぐるみおとまりかい	

表6は、お話に描かれているエピソードからの抽出ではなく、表現方法そのものに特徴的な絵本があるので、その表現方法を索引語として取り上げた。内容自身が歌ったり、口ずさんだりできる歌や詩であったり、お話自身の展開よりも、知識の伝達や他の著名作品へ導く絵本に付与するための語である。

表6 ストーリー以外の特徴的な表現要素

韻を踏む	歌	詩	ゲーム	クイズ
実在する作品の登場人物		実在の作品の紹介		

5. 今後の課題点

現時点で人名や図書館名は日本語表記のみを挙げたが、原綴は参照とするか注記、もしくは独立した索引語1語として、外国語の索引という項目を立てるのかを決めなければならない。利用者が選書する場合に情報としては、翻訳絵本かどうか、原書なのかということのほうに関心が向けられると考える。なぜならば、「読み聞かせ」や「教材」利用を想定するので、言語は重要な要素である。読み聞かせならば伝える相手に届く言葉でなくてはならない。

また、絵本に記載される表現を優先するのか、主題を表す語は統制語とするのか、同義語は統制をどこまで行うかも課題として残る。例としては母親を表す際に「ママ」と「おかあさん」がある。現実的には索引は「を見よ」参照でどちらかの方向へ統一することになる。また、「恐竜」と「トリケラトプス」のような階層関係にある語の場合は「をも見よ」参照を用いることになろう⁽⁵⁾。多様な恐竜の中にトリケラトプスが含まれる場合と、トリケラトプスのみが主要な役割として登場する場合があるので、「恐竜」に統一することはできない。

さらに、今回対象としている資料群は内容や編集形態としてフィクション、ノンフィクション、便覧、ワークブック等を含むため、その識別も必要となる。

このような点を整理し、実際の書誌または書誌データベース作成にあたって構成や編集の方針を決定することが今後の作業となる。データベースでは、索引語の事後結合による検索が可能となるよう構築し、索引語および中項目の見出しとしている語も索引語として付与すればよいのではないかと構想している。

図書形態（電子書籍も含む）の情報源を想定する場合は、書誌事項の一次排列は固定されてしまう。そもそも、その排列は意味を持たせるのか、タイトルの語順排列にするのかによっても構成は大きく異なる。排列には意味をもたせず、検索性の高い索引を備えることが可能であろうか。一方で大項目に分類し、さらにその中をタイトル語順排列するならば、むしろそのグループに固定されることによって、複数の観点からとらえる検索の柔軟性を失いかねないのではないかと。いずれにせよ、検索用に索引語の排列を表現する工夫が必要である。今回、複数の書誌・索引類を参照し比較したが、索引語がグループ化されていることで、それ以外の視点からは探せないというジレンマがあった。これらの長所・短所をうまく吸収し、実用に適したタグ付け、索引、分類を今後さらに検討し、個々の絵本資料についてデータ化を進めていく。

注1

- (1) 全国学校図書館協議会 教えて先輩 Q & A に絵本の分類と配架についての解説がある
<https://www.j-sla.or.jp/new-shishokyoyu/oshietesenpai-haika.html>
- (2) 国立国会図書館の web サービス リサーチナビ 調べ方案内 絵本児童書の探し方
https://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/childbook/cat6/index.php
- (3) 絵本ナビ 図書館が舞台の絵本
<https://www.ehonnaivi.net/special.asp?n=2396>
- (4) 鳴門教育大学 子どもの心を理解するための絵本データベース
<https://www.naruto-u.ac.jp/library/jidou/005.html>
 人文系データベース協議会, 人文系データベース構築事例のポータルサイト
 “子どもの心を理解するための絵本データベース” の紹介がある
<http://www.jinbun-db.com/database/archives/48044>
 また、佐々木の著書は2000年初版であるが、本文中に引用したデータは2007年時点のものであり、出版年と矛盾する。本書は2015年時点で第6刷になっており、データベースの収録状況はいずれかの増刷時に更新・付加されたものようである。
- (5) 藤田節子, 2019. 本の索引の作り方. 地人書館
 本文中に索引作成の技術的な引用は本文で行っていないが、索引作業を参考とした。

注2 本文中に言及した絵本のリストを付記する。(出現順)

ゲーテンベルクの不思議な機械 ジェームス・ラナンフォード 千葉茂樹訳 あすなろ書房 2013
 本と図書館の歴史：ラクダの移動図書館から電子書籍まで
 ルピナスさん パーバラ・クーニー かけがわやすこ 1982 ほるぶ社
 としょかんねずみ 1-4 ダニエル・カーク わたなべてつた 2012-2014 瑞雲舎
 しずかに ここはどうぶつのとしょかんです ドン・フリーマン ながかわちひろ 2008 BL出版 52
 風をつかまえたウィリアム ウィリアム・カムクワンパ/ブライアン・ミラー エリザベス・ズーノン さくまゆみこ 2012 さ・え・ら書房
 ママのとしょかん キャリ・ベスト ニッキ・ディリー 藤原宏之 2011 新日本出版
 トマスと図書館おのおねえさん パット・モラー ラウル・コーン 藤原宏之 2010 さ・え・ら書房
 図書館ラクダがやってくる マーグリット・ルアーズ 斉藤規 2010 さ・え・ら書房
 ぼくのブック・ウーマン ハザー・ヘンソン デイビッド・スモール 藤原宏之 2010 さ・え・ら書房
 はちうえはぼくにまかせて ジーン・ジオン マーガレット・プロイ・グレナム もりひさし 1987 ペンギン社
 ぼくが一番むむこと マリー・ブラットリー クリス・K・スーンピート 斉藤規 2010 新日本出版
 ぼくの図書館カード ウィリアム・ミラー グレゴリー・クリスティ 斉藤規 2010 新日本出版
 としょかんライオン ミシェル・ヌードセン ケビン・ホークス 福本友美子 2007 岩崎書店
 バスラの図書館員：イラクで本当にあった話 ジャネット・ウインター 長田弘 2006 晶文社

- 図書館に見童室ができた日：アン・キャロル・ムーアの物語 ジャン・ピンポロー デビー・アトウェル 張
替恵子 2013 徳間書店
- 道はみんなのもの クルーサ モニカ・ベルト 2013 さ・え・ら書房
- アンディとライオン ジェイムズ・ドーハティ ジェイムズ・ドーハティ 村岡花子 1961 福音館書院
- ステラのえほんさがし エルンスト, リサ, キャンベル 藤原宏之 2006 童心社

文献表

- 親子読書地域文庫全国連絡会編, 2013. おやちれんがすすめる読みきかせ絵本 250：低学年向 2003～2012.
絵本塾出版.
- 親子読書地域文庫全国連絡会編, 2015. 親地連がすすめる読みきかせ絵本 250：高学年向 2004～2014. 絵本
塾出版.
- 草谷佳子, 2012. 絵本は語る：はじまりは図書館から. 子どもの未来社
- 金原瑞人, ひこ・田中監修, 2018. 13歳からの絵本ガイド：YAのための100冊. 西村書店
- 佐々木宏子, 2000年. 絵本の心理学. 新曜社
- 東京子ども図書館, 2012. 絵本の庭へ：児童図書館基本蔵書目録
- 舟橋斉, 1993. 絵本の住所録：テーマ別絵本リスト. 法政出版
- 舟橋斉, 富田克己, 2018. 保育・子育て絵本の住所録：テーマ別絵本リスト 2版. 三学出版
- 村主千賀, 2017. 絵本に描かれる図書館. 東海学園大学研究紀要 第22号 91-106
- 村主千賀, 2018. 絵本の中の図書館リテラシーとマナー（絵本に描かれる図書館2）. 東海学園大学研究紀要
第23号 107-120
- 村主千賀, 2019. 韓国の絵本の中の図書館（絵本に描かれる図書館3）. 東海学園大学研究紀要 第24号
111-120
- 村主千賀, 2020. 図書館は生活の中でどのように描かれたか（絵本に描かれる図書館4）. 東海学園大学研究
紀要 第25号 87-99
- 村主千賀 2020. 子どもが図書館を知り親しむための資料の検討：児童教育における図書館利用に関する資料
選択の支援として. 東海学園大学研究紀要 第4巻 7-15